

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・3か月前に比べるとかなり良くなってきている。全体的にはあまり良くなっていないが、売手側の品ぞろえはかなり消費者に対応できている。今月前年を大きく上回っているのは婦人雑貨の軽衣料、化粧品、リビング関連のほか、徐々に食料品も前年を上回った。一方、高額品と重衣料は相変わらず厳しい。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・商況の変化や天候が良いことから、来客数はやや伸びた。土日祝日は前年割れとなり、特に土日の来客数がマイナスとなったが、平日でカバーしている。店頭売上は、物産催事の集客と友の会満会セールにより好調であった。ただし、依然として暑い日が続き、秋物衣料は苦戦している。また、クレジットカード会員の募集キャンペーンを行っていることもあるが、現金からクレジット利用への移行が進んでいる。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・商品売上に関しては、3か月前と比べれば回復傾向にある。割引等の施策の効果もあるが、食品部門以外も前年並みの売上に近づいてきている。
		百貨店（売場担当）	販売量の動き	・今月は米国の大手金融機関の破たんから1年経ったということと、大型連休があったという2点がポイントである。売上、来客数は前年比4ポイントほど低下したが、従来の流れに比べ若干改善している。秋物衣料品の定価品の売上が戻ってきたほか、食料品も前年並みで安定している。紳士服も若干上がっているもので、全体的にみると上がっている。他店についても、大型店は前年比96～97%で推移しており、従来の流れよりも良くなっている。
		衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・気候も涼しく、大型連休等で来客数が多かった。デパートのハウスカードでの割引期間中は特に客が多く、秋物への購買意欲も高かった。
		家電量販店（店員）	販売量の動き	・エコポイントでテレビの動きが非常に良くなっているが、冷夏で冷蔵庫とエアコンがいま一つ伸びがなかったのが全体としてはどちらとも言えない。ただ、このままエコポイントがある間は若干伸びる。
		乗用車販売店（管理担当）	販売量の動き	・新車販売は、エコカー減税、補助金効果で受注、販売とも好調に推移している。ただ中古車の販売はまだまだ厳しい。特にスクラップ車が増えて商品となる車が減少している。
		高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・6月より7月、7月より8月と景気が上向いている。9月は大型連休での来客数がゴールデンウィークを上回っており、大型連休後も客の流れが良い。
		通信会社（企画担当）	販売量の動き	・明確な原因は不明だが、販売件数がやや増加した。
		ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・企業・団体コンペは低迷しているものの、少人数単位の若者グループや女性の動きはやや上向いてきている。
	変わらない		商店街（代表者）	販売量の動き
		商店街（代表者）	来客数の動き	・客は商店街に来るより、近くのコンビニ、スーパーで間に合わせているようである。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・客に商品を買おうという意識があっても、なかなか購買に結び付かない。
		商店街（代表者）	単価の動き	・修理物が多く、客は新しいものを買わない。修理物を扱いながら、それに関連する新しいものを売る以外、売上を伸ばす方法はない。
		商店街（代表者）	お客様の様子	・例年のように8月中旬よりカバン・靴を含むファッション関係の店舗では秋の新作が陳列されていたが、客の関心がなく、客はまだ購買意欲がない様子である。
		一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・し好品である果物の動きがかなり鈍い。野菜の入荷が少ない割に相場的になかなか上がらない。かなり需要が低迷している。

百貨店（売場主任）	お客様の様子	・価格が安くても必要でない物は買わない傾向が続いている。
百貨店（企画）	販売量の動き	・売上高が相変わらず前年比90%前後で推移しており、大きな変化がない。ただし、この数値は景気だけの影響かどうかは不明であり、新型インフルエンザのまん延による大型集客施設への来店自粛による影響も考えられる。実際、当社のショッピングセンターの来客数は土・日に大きく前年割れしている。学校等から人が集まる場所へは極力行かないようにとの喚起が徹底している可能性が高い。
百貨店（営業企画担当）	単価の動き	・来客数は減少傾向で、前年比3～5%減が続いている。買上数量は前年並みをキープしているものの、買上単価の低下や買上数量の減少から、売上の低迷が依然として続いている。特に高単価商品の不振が続き、外商活動は前年実績を大きく下回っている。
百貨店（業務担当）	お客様の様子	・秋冬物の商戦が本格的に始まった。これまで出始めの商品は冬のボーナス払いの扱いが多く、高額品にも動きが見られたが、今年は動きが弱い。セールも初日だけのにぎわいで、翌日は訴求効果もみられない。客の消費に対する慎重さは変わらない。
スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が徐々に落ちていく傾向にある。客は価格に対して非常に敏感であり、他社のチラシと商材、内容等を比較しながら1円でも安いものを求める傾向が相変わらず続いている。
スーパー（店長）	お客様の様子	・昼食代を弁当、飲料込みで400円以内で収める客が増加している。衣料品は夏物最終処分をしているが、通常であればまとめ買いで買上点数がアップしていたが、今年は、客は今必要な枚数しか買わなくなっており、前年より買上点数が減少している。
スーパー（店長）	来客数の動き	・6月に来客数が前年比5%減と急激に減少して以来、来客数の増加が見られず、販売政策などの仕掛けによる買上点数の増加でしのいでいる。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・天候は良いが客足が鈍化している。来客数の減少に加え買上点数も減少し、売上が大幅に下がっている。景気に大きく左右されるのか、おでんの値下げキャンペーンを実施したところ、おでんの売上が大幅に増加した。客の買物志向は、低価格商品を買いたいという状況にある。
コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・大型連休期間は来客数が伸びたが、月間では従来の月と同様に客単価の低下傾向はそのまま、全般的には大きな売上改善にはつながらなかった。景気判断としては変わらない。
衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・例年、9月は洋品店にとって悪い月であるが、今年は特に大型連休があったことで行楽に出かける客が多く、当店の来客数が減り、気温も暑かったため売上は過去最低であった。
衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・秋物が少し動いたので立ち上がりは良いと思っていたが、中旬から中だるみが始まった。やはり財布のひもは固く、客は定価の商品を買うにはまだ吟味している様子である。それでもセール品を店内に混ぜてうまく工夫し、売上は何とかしのいだ状況である。春夏物のセールが早く始まりすぎたので、秋冬物もまた早くセールになるのではないかとという考え方が客に定着してしまったのではないかと懸念がある。
家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・薄型テレビだけが好調で、その他の商品の売上は大幅な前年割れを起こしている。
乗用車販売店（従業員）	単価の動き	・減税効果でエコカー以外の車の販売が悪く、単価が低い。
乗用車販売店（販売担当）	販売量の動き	・政府の景気対策で若干販売量が持ち直しているが、それでも総量は前年と一緒かやや落ちる程度で、全体の販売量は上向いてはいない。
その他専門店 【コーヒー豆】 （経営者）	来客数の動き	・来客数自体は若干減少しているが、客単価は比較的平均を上回っている。従って売上も前月、前々月と比べてあまり変わらない。ただ、今後は年末にかけての需要が出てくるので、売上は増加する。

	その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	お客様の様子	・9月は大型連休があり、もう少しガソリンの販売量が前年より増加すると予想したが、思ったほどではなかった。しかし、客は安・近・短のレジャーを楽しむ姿が多くみられ、決めた予算内で消費しているようである。
	その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] (支配人)	来客数の動き	・買上単価が下落しており、それを補うためには来客数の増加を図らなければならないが、買上点数が追い付いていない。
	その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売] (従業員)	販売量の動き	・大型連休があったにもかかわらず売上が伸びない。客は皆節約している。
	その他飲食 [居酒屋] (店長)	来客数の動き	・来客数が少なく、県外客が足を運んでいない。
	観光型旅館	販売量の動き	・高速道路料金値下げの効果により、休日の売上は大きく伸びている。しかし、平日の落ち込みが大きく、全体では前年比横ばいもしくは微減である。
	観光型ホテル (スタッフ)	販売量の動き	・婚礼は競合他社の新規参入で苦戦しているが、一般宴会・宿泊・レストランが善戦し、なんとかカバーできている。
	都市型ホテル (総支配人)	来客数の動き	・海外客の需要が依然として回復せず、厳しい状況が続いている。
	都市型ホテル (副支配人)	来客数の動き	・9月は総選挙が終了し営業が少しずつ動き始めた。また、大型連休があったため思いのほか客の移動があった。
	旅行代理店 (従業員)	販売量の動き	・大型連休は確かに需要は増えたが、夏休みの分散と、前後のマイナスとで総需要は増えていない。新型インフルエンザによる団体予約の取消や延期が続いている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・大型連休のタクシーの利用客は多かったが、月前半の利用はとても悪く、まだ良くなるとは言えない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・大型連休の間は県外客が多く、ホテル関係は結構にぎわったようである。タクシーにもその効果があったが、それ以外の日は良くなかった。
	通信会社 (管理担当)	それ以外	・資金繰りが厳しい状態が続いている。
	通信会社 (営業担当)	お客様の様子	・最近、また法人客から携帯電話の解約が徐々に出てきた。
	テーマパーク (職員)	来客数の動き	・大型連休期間は、天候に恵まれたほか高速道路料金引下げ効果もあり、県内の観光地と同様に当社宿泊客もゴールデンウィークより多く、満館の施設もあった。ただ、この期間以外は落ち込んでおり、平均すると前年並みである。
	ゴルフ場 (従業員)	単価の動き	・依然として景況感は厳しい。夏場から9月にかけて、ゴルフ場はプレー代を若干値引きしたら客が来るという状況で、結局は相対的な来客数は若干増えるが売上は前年実績ぎりぎりまで推移している。
	音楽教室	それ以外	・先月とは打って変わって、高額商品を購入する人が急激に増えた。数百万の買物である。その反面、景気の悪い会社は依然そのままなので、良くも悪くもならない。
	住宅販売会社 (従業員)	来客数の動き	・住宅展示場の来客数が増えない。
	住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・選挙が終わって落ち着いたこともあり、従来と変わらない問い合わせ数、物件成約数である。
やや悪くなっている	商店街 (代表者)	販売量の動き	・商店街の来客数ががぜん少ない。客はイベント等には来るが、買物にはつながらない。
	商店街 (代表者)	来客数の動き	・客の買上単価が下がってきている。また、中心商店街の食料品スーパー等が閉店したため、来客数がかかり減っている。
	一般小売店 [生花] (経営者)	来客数の動き	・わずかではあるが、以前に来店、購入した客から新規客を紹介してもらおうという嬉しい広がりがある。
	一般小売店 [茶] (販売・事務)	来客数の動き	・来客数はかなり減少している。天候要因だけではなく景気に対する不安が売上に表れている。前年以上に割引し販売しているが、売上は伸びない。

	スーパー（店長）	販売量の動き	・高額商品の動きが鈍くなってきている。客の価格に対する目が厳しい。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数が前年比93%まで低迷したほか、買上点数も同90%とさらに下がっている。1人当たり買上単価も79円ほど落ちている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・衣料品は夏物がとにかく売れない。食料品は大型連休以外は買い控えて財布のひもが固く、前年比95～96%で推移している。競合店との耐久力勝負に勝てば売上は上がる。
	スーパー（総務担当）	単価の動き	・来客数、客単価とも低下している。また、買上点数も若干少なくなっている。
	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今年は晴れの日も多く、月初から秋の気配を感じさせる天候であり、秋物商材の売行きに期待していたが、依然として小売業界の消費動向は低迷が続いた。ディスカウントスーパーの低価格攻勢に加え、大型連休による外出も増えたため来客数が減少し、苦戦を強いられている。
	コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・当店はオフィス街に立地しているため、大型連休があると来客数が減る傾向にあり、客単価も思うように伸びない。
	自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・政権交代で高速道路無料化が現実味を帯びてきているため、ETC効果が薄くなってきている。
	住関連専門店（経営者）	それ以外	・毎月のキャンペーンを今月は月初めと後半に行ったが、2回とも良くなかった。
	その他専門店【書籍】（店長）	単価の動き	・デフレスパイラルに入り、安くないと物を買わない傾向がますます強くなってきた。また、高速道路料金引下げにより、潤っているのは観光地と高速道路の売店のみで、一般の小売業者には逆風となっている。むしろ運送業者の料金を安くし、物流コストを下げるべきである。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・現在の客足は鈍く、10月の予約もまだ一向に良くならない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・昼夜とも人の動きが全くない。また私たちの待機の時間が今まで以上に長くなって売上が全体的に落ち、会社もリストラを考えているようだ。
	タクシー運転手	お客様の様子	・今の状況では客は金を使わない。客は、出かけると金がかかるということで、非常に動きが悪い。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・9月は敬老の日キャンペーン等が実施されたが、客に対する価格・機能面でのインパクトが弱く、販売台数は前年と比較しても大幅に減少している。
	美容室（経営者）	販売量の動き	・夏場の売上は非常に悪かった。選挙があったほか、景気対策効果が今一步表れていないのも原因である。一番問題なのは、客の消費意欲が上がっていないことである。マイナスイメージだけが強く出ていて、購買意欲が上がっていない。
	美容室（店長）	お客様の様子	・今まで料金のことを客から言われたことはなかったが、貸衣装のことで、年金生活なので最低料金でお願いしますと言われた。
	設計事務所（所長）	お客様の様子	・景気が悪いことを客も肌で感じているようで、ぜいたくな物の購入を控えている。設計についても、グレードの低いものを望んでいる。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・来客数も売上も減っている。
	一般小売店【鮮魚】（店員）	それ以外	・資金繰りが悪化しているため緊急安定化資金の申請をするが、この返済も大変である。
	スーパー（経理担当）	販売量の動き	・米国の大手金融機関の破たん以降、機械産業から関連産業、サービス業に加え、いよいよ一般消費者まで影響が出ている。3か月連続で全体的に業績が悪化しており、バブル崩壊時期に似た動きである。
	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・9月の実績も相変わらず前年割れである。生産ベースは横ばいで、パンの低価格商品を出したために低価格以上の商品の販売が鈍っている。弁当販売は280～290円が主流で、400～500円の弁当は生産個数も低下している。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・単価が非常に下がっている。
	衣料品専門店（店長）	販売量の動き	・9月半ばを過ぎているが、暑さのせい客足が途絶え、秋物も動かない。

		衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・特にこの夏の暑さは、景気の悪さと重なり客足を鈍くさせた。
		高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・9月の来客数は、8月同様選挙の影響もあり出足が鈍く、中旬以降減少し戻ってきたがまだまだ少ない。景気回復の兆しは見えてこない。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・来客数、客単価とも過去最悪で、とても店を維持できる状況ではなくなっている。
		美容室（店長）	来客数の動き	・今月は大型連休の影響で悪かった。
企業 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・季節性のある商材が比較的順調に売れ、3か月前よりは良くなっている。
		一般機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・ソーラーパネルや電池関連の取引先からの引き合いや見積依頼が多少増えてきた。しかし、現状では競争が激しく価格勝負となるほか、仕事になるのは1、2か月先であるため、気を緩めることはできない。
		建設業（社員）	受注量や販売量の動き	・上半期の発注が多くあり、受注も確保できている。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・公共工事の前倒し発注に伴い、建設業者の資金需要がおう盛になっている。ただ、景気が上向きになっているということだけでなく、公共工事の前倒し発注に伴う資金需要である。
		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・今年の9月は非常に特殊で休みが多かったこともあり、1日単位でみれば販売量が増しているが、月合計では8月よりも厳しい。業種によってはばらつきがあるが、これだけ休みが多かった割には健闘したといえる。一時期よりも明るさは戻ってきている。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・夏場の悪い流れが継続している。スーパー、居酒屋等、エンドユーザーに直接関係あるところが伸び悩んでおり、前年比約10%の落ち込みがみられる。冷凍食品加工向けの納品も本来なら9月から年末需要で引き合いが強くなるが、思うような引き合いがない。	
	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・プロイラーの販売価格が低迷している。末端での販売がうまくいかないことが原因であろうが、このままの相場で行けば非常に厳しい。	
	家具製造業（従業者）	受注量や販売量の動き	・9月は大型連休もあり家具の消費にはマイナス要因として働いた。低価格商品だけが何とか動いている状況は今月も変わらない。例年、9月は売上指数が約130と例月より高いが、今年は指数対比80%程度と低迷している。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・受注が少なく競争が激しくなったことで単価が下落しており、高くすると受注ができなくなる。組合の売上も特に悪く、3割ほど下落している。企業は、雇用調整助成金を使い休業補償や教育訓練等で何とかしのいでいる。	
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・相変わらず受注低迷の状況は変わらない。営業に回る気持ちすら薄れていく状況である。金型のような典型的な受注産業は打つ手がない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体関連は一進一退の状態である。先行きの読みはもろろんであるが、現状も非常に不安定である。精密機械部品関連の状況も非常に悪い。	
	輸送業	受注量や販売量の動き	・政権交代があったものの、身近な所では変化は感じられない。	
	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・荷動きが良くない。	
	金融業	取引先の様子	・緊急経済対策資金や既存借入金の条件緩和により、中小零細企業の資金繰りは一段落しており、受注状況もわずかに好転し底を脱した。ただし、問題を先送りしているだけであり、損益状況が改善する見込みは低い。	
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・企業業績に関して厳しい状況は継続しているが、水準的には横ばいで推移している。	
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・取引先である中小企業のなかでも、小売業は個人消費低迷を受け厳しい売上状況が続いている。売上減少が続くなか固定費を吸収できず赤字が続く、後ろ向きな資金需要の要請が続いている。	
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・売上に直接結び付かないようなコンサルタントの仕事は、あまり増える傾向にない。	

		経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・汚染米事件で酒類メーカーは売上が30%減少し、風評被害を負ったメーカーも回復していない。
		経営コンサルタント(代表取締役)	取引先の様子	・好転する兆しがいまだに見えていない取引先が多い。
やや悪くなっている		繊維工業(営業担当)	競争相手の様子	・今月に入り同業者の競争相手がまた倒産、縮小し始めている。さらに厳しい状況になっている。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・決算期であるにもかかわらず、どの業種も荷動きが悪い。段ボール原紙及び輸入紙、特に国内の輸入紙については扱いが少なく、輸出、海外からの輸入紙が好調なくらいである。ペットフード業界においても、メーカーから小売店の最低発注量を少なくして何とかオーダーをもらうような形で受注量を増やそうという動きが起こっている。
		金融業(営業職渉外係)	取引先の様子	・売上低迷等の影響により貸出金の返済が困難となっている取引先が増加している。返済猶予を申し出る取引先が増えており、実体経済はいまだに厳しい。
		その他サービス業[物品リース](従業員)	受注量や販売量の動き	・9月は年度中間期で受注額も例年大幅に増加する月であるが、今年は設備投資案件も非常に少ない上、更なる競争激化の影響で、数年振りの大幅受注不振の状況にある。
	悪くなっている	その他サービス業	取引先の様子	・市町村が業者へ委託業務を発注する際に、既に別件で入札して落札した業者に、関連業務として随意契約で指名することがあるが、建設業界では赤字覚悟の低価格で入札する場合があります、随意契約も前回の赤字となる落札率で契約を迫られる場合がある。自治体は、予算削減のため、徹底して安く発注するようになってきている。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	-	-	-
	変わらない	人材派遣会社(社員)	周辺企業の様子	・相変わらず求人数も少ないし、派遣スタッフが自己都合で終了になった場合、後任はいらないという企業が増えている。
		人材派遣会社(社員)	雇用形態の様子	・正社員採用よりもパート採用の割合が増えた。当社の採用も正社員から契約社員に変えた。
		人材派遣会社(社員)	求人数の動き	・県内においても更なる人員調整が進んでいる。長期派遣のみならず派遣依頼そのものが止まっている状況である。
		人材派遣会社(管理担当)	周辺企業の様子	・同業者の集まりでも、売上減少傾向に歯止めが掛かっていないとの情報や、拠点や人員の整理・再編の話をよく聞く。
		新聞社[求人広告](担当者)	求職者数の動き	・求人広告の引き合いが悪く、求職者側もややあきらめムードがある。
		新聞社[求人広告](担当者)	周辺企業の様子	・新政権の期待感もあるようだが、企業の関係者は冷静に見ており、景気については良くも悪くもないと思う人が多い。
		職業安定所(職員)	求職者数の動き	・新規求職申込件数をみると、前年9月以降連続して前年同月比増の状況が続いている。
		職業安定所(職員)	求人数の動き	・ほとんどの産業で新規求人数の前年比マイナス傾向が続いている。
学校[専門学校](就職担当)	求人数の動き	・求人件数が少ない状態が相変わらず続いている。		
学校[大学](就職担当者)	求人数の動き	・求人の受理件数は低調なままで推移している。優秀な学生であれば選考のテーブルに乗せてもよいという企業が一部見受けられるが、一般的に秋採用の情報は少ない。		
やや悪くなっている	新聞社[求人広告]	求人数の動き	・求人数の動きとしては3か月前とさほど変わっていないように思えるが、実感としては悪くなっている。	
	職業安定所(職員)	求人数の動き	・8月の新規求人数は前月比5.4%減少し、前年比では10.4%減少している。製造業を中心に、主要産業のほとんどが前月・前年比とも減少している。	
	民間職業紹介機関(支店長)	求人数の動き	・第2四半期の派遣需要(新規・追加注文数)を見る限り前月を下回ってはいないが、前年比4割減と依然として絶対数が不足している。	

悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	採用者数の動き	・製造メーカー等は稼働時間が前年並みまできているが、人員を増やすまでの企業マインドの回復はない。来期4月以降の目途がつけば雇用回復となる。
	求人情報誌製作 会社(編集者)	それ以外	・例年9月になると求人が活発になるが、今年は全く動きがない。企業に求人意欲が感じられず、離職者が少ないのも原因になっている。当社の売上も前年の5割を割り込む勢いである。
	民間職業紹介機 関(社員)	求人数の動き	・7、8月に契約終了の動きが一段落した感じがあったが、9月に入り派遣社員の直接雇用化による派遣終了、営業所の集約統合による事務所の縮小閉鎖による派遣契約終了の動きが発生した。